

令和2年度第3回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：「くだもの王国岡山」ぶどうの振興
- 2 日時：令和2年11月25日（水）13：25～14：50
- 3 場所：高梁市図書館（高梁市旭町1306）
- 4 参加者：本県のぶどう振興に携わる生産者や流通事業者など6名

5 知事挨拶

本県のぶどう振興に携わる皆さんから、県産ぶどうの魅力や可能性、今後必要となる取組などをお聞きしたい。

6 発言内容等

【自己紹介・活動など】

- ・神奈川県出身。高級果物であるぶどうに魅力を感じ、岡山へ移住、就農した。
- ・大阪府出身。祖父の後継として岡山で就農。就農後、相談できる人が近くに
いなく、技術向上や経営相談をはじめ自治体の支援がありがたかった。
- ・北海道から、岡山県へ移住し、就農した。産地で栽培面積の拡大に取り組ん
でいる。
- ・ぶどうの輸出入に関わる仕事をしている。県産ぶどうは、海外でも評価が高
い。

【本県のぶどう振興における課題、有効なアイデアや必要となる取組など】

- ・県産ぶどうの首都圏等への売り込みは一定の成果が出ている。今後はぶどう
を目的に岡山県を訪れてもらえるような誘客に繋げていく必要がある
- ・労働力確保に苦慮している。移住者には親類縁者がおらず、農繁期に作業を
頼める人がいない。
- ・アルバイトを雇いたい農家と、働きたい人を1日単位でマッチングする d a
y w o r k というアプリがあるが、事業者登録をしているのは県内では一つ
の J A のみなので、もっと普及すればよいと思う。農業は繁閑の差が激しく、
年間を通じての雇用が難しいため、短期で就労できる方を探している。
- ・栽培面積の拡大により家族だけでは作業が間に合わず、土日を中心に学生に
バイトに来てもらっている。今では、地元大学に「ぶどう部」という L I N
E グループができ、L I N E を通じて学生が集まってくれる。もっと時給の
良い仕事もあるだろうが、農業経験をしたいという学生が来てくれる。その
中には、卒業論文に地域再生としての農業をテーマとする学生もいる。
- ・県内企業の新入社員がボランティアとして農作業支援に来てくれている。こ
うした取組が県内に広がるとうれしい。
- ・新規就農者には、加温ハウス等の設備は高額で一人では導入が困難である。
リース事業などの仕組みがあったらうれしい。農業は家業から事業への発想

転換も必要である。

- ・韓国、中国など海外で、国産のシャインマスカットのコピー品が出回っている。ブランドショップのように正規品の販売店が必要なのではないか。
- ・市場流通の観点から、加工分野にはまだまだ伸びる要素がある。くだもの特有の「香り」を重視した商品は人気が高い。シャインマスカット等の県産ぶどうは、市場の評価が高く、高価格帯での取引が今後もしばらくは続く気配があるが、だからこそ今、10年先を見通して加工分野を注力すべきである。

7 知事まとめ

- ・ぶどうの振興を支える皆さんには、それぞれの立場でリーダーとして頑張っていていただきたい。皆さんの活躍が地域のにぎわいにも繋がる。
- ・県としても様々な取組を進めていきたい。